

# 山口新聞

発行所  
みなと山口合同新聞社  
〒750-8506 下関市東大和町1丁目1-7  
http://www.minato-yamaguchi.co.jp/

編集局 ☎083(266)3211  
FAX 083(266)5344  
yedit@minato-yamaguchi.co.jp  
営業局 広告 ☎083(266)3212  
販売・事業 ☎083(266)3213

2016年(平成28年)

1月3日  
日曜日

TODAY

(日曆11月24日、仏滅、きのえさる)

(きょうの歴史)

▼1922年、イギリスの考古学者ハワード、カーターらがエジプト第18王朝のツタンカーメン王の墓を発見した。発掘後間もなく、関係者が次々と不思議な死を遂げたことから「ファラオの呪い」とうわさされた。

▼1868(慶応4)年、京都の鳥羽・伏見で旧幕府軍と長州・薩摩軍が戦闘、戊辰戦争が始まった。

地方新聞社が厳選  
地域の逸品・取り寄せサイト  
みんなのあそび場  
**47CLUB**  
出店者募集中  
よんなくらぶ

# "田舎"を強みに

## 下関市菊川町の貴和の里につどう会

### この地域とともに

山口新聞創業70周年企画



<1>



# 多彩な体験イベント人気 活動通じ地域住民にも絆

「故郷をいつまでも残したい」という熱い思いで活動している。ここに来てくれた多くの人との出会いが宝となり、私たちが住む3集落を支えている」

下関市東部の山間に位置する菊川町の樅の木、道市、豊井の3集落で活動する住民有志の団体「貴和の里につどう会」の吉村利道会長(74)はこう胸を張る。人口116人、55世帯(2015年11月末現在)で昔ながらの田園風景が広がる小規模集落だが、都市部とは異なる「田舎」を強みにした活動が、活性化や地域の絆の醸成につながっているという自負がある。

3集落も人口減少や高齢化の影響を受け、次にセイタカアワダチソウが生い茂る耕作放棄地や空き家が目立つようになった。3集落唯一の学校だった豊東小学校豊井分校も児童数の減少で2003年から休校状態が続いていた。「何とかしなければ」と吉村会長。分校舎を残して地域おこしに活用できないかと模索し、同分校が廃校になる1年前の07年に同会を設立した。

岡本雅事務局長(79)は「とにかく手探り状態だった」と設立当時を振り返る。市から木造1階建ての分校舎を無償で借り受けて「貴和の館」と名付けた。空き家を改修し、かまどでの炊飯や五右衛門風呂体験ができる宿泊施設「貴和の宿」を整備。耕作放棄地にソバを植えて刈り取りや脱穀、そば打ち体験などができるようにした。稲刈りやタケノコ掘りなどを楽しむイベントも実施して、徐々に活

動の幅を広げていった。賛同者も増え、当初20人だった会員は現在93人にまで増加した。

イベント時は集落に子どもたちの元気な声が響き、地域外から定期的に参加する親子連れも増えた。長男の悠生君(5)とともに毎回のように参加する同市福江の高田恵美子さん(39)は「街中ではなかなか味わえない田舎の魅力を息子に体感させたい」と話す。

山口大工学部(宇部市)住民の約半数が65歳以上という年齢構成、耕地や山林の荒廃、活動人員の不足や資金調達など、今後の運営には課題もある。だが吉村会長は「地道な活動こそが重要」と強調した上で、「課題はどれも容易に解決できるものではない。できる範囲で活動することが継続の秘訣だ」と話す。

「自分たちの活動を通じて、就職などで出ていった人の中に『地元へ帰ろうか』と想ってくれる人が出てくれたら」。吉村会長ら同会みんなの願いだ。

山口新聞はことし2月に創業70年を迎える。長年にわたって掲げてきた「地域密着」の編集方針をこれからも引き継ぎ、地域とともに歩み続けていく決意を込め、山口県内各地でそれぞれ地域での営みを守り、将来につないでいこうと奮闘する住民たちの取り組みを紹介していく。